

今こそ読む この1冊

潮木守一

名古屋大学・桜美林大学名誉教授

有本章編著

『変貌する世界の大学教授職』

(2011年 玉川大学出版部)

唯一無二の教授職調査

現在、世界の学生数は1億5000万人、教員数は350万人に達するという。大学は今や世界の一大成長産業となった。世界全体でみれば毎年多くの大学が新設され、学生数・教員数ともに増え続けている。膨大な規模に達した大学教員が、それぞれの国でどのように養成され、どのような役割を果たし、どのように変化しつつあるのかを、膨大な実態調査をもとにまとめているのが本書である。

すでに1992年、アメリカのカーネギー財団が世界14カ国に呼び掛け、大学教授の実態調査を実施した。有本氏はこの調査に日本側の中心研究者として参画した。その成果はすでに江原武一氏との共編著『大学教授職の国際比較』(1996年玉川大学出版部)として公刊されている。ところが2005年からは有本氏自身が、カーネギー財団に代わって多額の資金を集め、世界18カ国の教員を対象とする調査を開始した。まさに世界各地の18カ国を対象とした点では、唯一無二の研究プロジェクトである。その成果の一部はすでに『変貌する日本の大学教授職』(2008年玉川大学出版部)として公刊されてきたが、その後集められたデータ・分析結果をもとにまとめたのが本書である。

組織経営手腕と高い研究倫理

これほど多くの国々が参加し、多くの研究者がかかわる調査活動をまとめるのは、単なる研究者としての資質だけでなく、研究組織の経営者としての能力が必要となる。本書を一読すれば、有本氏が見る組織経営者だということを知ることができる。しかも本書の執筆陣は16名。つまりこれだけの研究者にそれぞれ役割を割り当て、1冊の著書にまとめるには、多くの配慮と調整能力が必要であろう。最近では多額の研究資金を1カ所に集中的に投入する方式が採用されているので、その結

果共同研究が多くなる。チームで行った調査結果を、個人名で刊行するのではなく、本書のように、参加者全員に分担執筆させている点に、高い研究倫理を感じさせる。

多様化した教員から改革の提案を

大学の組織が大きくなれば、教員の仕事も変化する。教育と研究だけでなく、組織運営上の仕事も増える。大学を取り巻く企業・メディアとの共同作業も増える。今では大学教授職といっても、一括りにはできないほど多様化した。教員の種類も増え、一般企業と同様、パートタイマーが増え、一生涯を一つの専門に集中する教員ばかりではない。長い人生コースの一部をたまたま大学教員として勤める「カジュアル教員」もでてくる。大学の拡大は、大学教員の実態を変え、彼ら・彼女らの意識をも変えた。要するに大学とひとことでもいっても、それは多様な組織であり、大学教員といっても一様ではない。さまざまな人生目標をもった、さまざまなキャリアを辿った人々をブレンドさせて初めて大学が成り立つ時代が到来した。世間ではその多様性を見ることなく、「大学の転落」を論じたがる人がいるが、そのようなスタイルはもはや通用しない。

本書の最終章「大学教授職の展望」では、多くの調査結果を踏まえたうえで、教授比率を抑制し、逆ピラミッド型からピラミッド型に改革すること、任期制を助教から教授までの全体に拡大させること、自大学卒業業者だけで固めるインブリーディングを変え、アウトブリーディングを実現すること、年功序列・終身雇用制を見直し、定年制を廃止すること、といった思い切った提案がなされている。いずれにせよ、大学という組織が今まで歴史上になかった構造的な変化を辿っている以上、抜本的な議論が必要であろう。いかなる組織改革も既得権益をもった者と、そうでない者との葛藤となる。だから誰も手を付けたがらない。まずは大学教員それ自身から議論を起こすしかない。

